

中期計画
(2019～2024)

千里国際
中等部・高等部

各学校での承認
2022年 月 日
第 回運営委員会

責任者名: 千里国際中等部・高等部校長

【3年間の運営方針】	【3年後のありたい状態】
<p>1. 人材育成、教育の方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 世界市民育成:「Informed, Caring, Creative Individuals Contributing to a Global Community」を育てる。世界人権宣言の趣旨に基づいた世界市民として、世界のどこかで貢献ができる(Mastery for Service)人物を育てるキリスト教主義教育に基づく全人教育を実践する。 2. カリキュラム再編:Kwansei コンピテンシーに繋がるSIS Learning Compassに基づいてカリキュラムの再編を行う。6年間の学びのシーケンスを一層可視化する。SGHで培った探究スタイルを持続発展させる。(ポストSGHプログラム) 3. 6年一貫教育を強化:一般生は中学1年生からのみ受け入れる。(院内推薦は高等部からも)(帰国生はどの学期からでも) 4. バイリンガル環境:言語サポートの体制を教科し、日本語での学習経験が浅い帰国生徒を受け入れやすくする。 5. IBDP:2013年にSISに在籍しながらOIS生徒と共にIBDPを取得する制度を確立したが、日本語IBDP授業の導入には制度上の問題があり断念している。これを克服する方法を検討する。 6. STEM/STEAM/STREAM:理工学部との連携、及び、校内での理数系の教員の協働により、理数系プログラムを発展させる。 7. 世界標準の教育:大学との連携により、国際的な学会、コンペティション、カンフェレンス等の参加の機会を増やし、高校在学中に世界標準のアウトプットの機会を持つ。 8. 卒業後進路:関西学院大学への院内推薦率を上げ、10年一貫の教育を発展させる。同時に、海外大学への進学率も伸ばす。 	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 5 Respects, Kwansei コンピテンシー、SIS Learning Competencies, SIS Learning Compassの系統的なつながりがすべての教育活動に反映 ● 学院行事への積極的参加 ● 奉仕活動 Service Learningの導入 ● AI、PBL、起業、Innovationなどユニークな高大連携の学習機会の創出 ● 深い学びを実現する学習内容、方法、評価の確立 – SISスタンダード ● ブリッジングセンター(バイリンガルサポート)の運営、情報発信
<p>2. 児童・生徒獲得の方針</p> <p>SISの生徒獲得は、海外へのアプローチと国内でのアプローチの二つの側面を有し、それぞれのニーズに応える戦略が必要である。帰国生徒率を上げるために、前者に一層力を入れると同時に、国内での知名度の向上を目指す。</p> <p>◎ 海外へのアプローチ:帰国子女財団のツアー参加は縮小し、他の機関(クリスタライン・日能研)も継続または新規検討。同窓会の協力を得ての独自説明会開催も引き続きの検討事項。メディアの活用、SNSの利用、ウェブの開発にも一層尽力する。</p>	<p><2024年度のありたい状態></p> <ul style="list-style-type: none"> ● パブリックリレーションズ + マーケティングチームによる効果的で革新的な広報活動とブランディング ● 生徒獲得を目的とするものから学校と教育活動を知ってもらうことを主眼に置く広報に転換 <p>媒体のデジタル化、オンライン化 SNSの有効活用</p>

◎ 国内でのアプローチ:2017 年度より少しずつ進めてきた塾との交流を発展させる(他校との差別化に留意の上)。SISやSOISをサポートしてくれる卒業生や元保護者とのコミュニケーションの向上を目指す。国内での情報発信メディアの再検討(YOMIURI など)。

<2024年度のありたい状態>

- Segmentation (市場の分類化) - 入学の可能性が高い保護者層・児童層に焦点を当てた効果的な広報活動へ転換
- SNS の効果的活用(Facebook, Instagram 等)- たとえば、2021 年 8 月16日から 9 月12日の期間に SIS の Facebook に入った人は 261%増加、動画や画像を見た人は 865%増加。
- Homepage のデザインや内容の継続的な更新 - たとえば 2021 年 8 月の大阪私学展で SIS ブースに来た保護者はみな SIS の Homepage から情報を得ていた。

3. 中期的な課題

<フェーズ2(2022~2024)>

学習内容・方法・評価の改善:

- 学習プログラムの開発 - 個別最適化の推進:すべての子どもたちが深く学び成長する学習プログラム
- 学習指導法の開発 - 構造的思考力、批判的思考力、創造力の伸長:すべての子どもたちが深く学び成長する学習形態
- 学習評価の改善と開発 - すべての子どもたちの成長を正しく測定し常時伝える学習評価法と配信システムの開発

より良い学習環境の創出:

- Kwansei コンピテンシー、SIS ラーニングコンパスを具現化する学習環境の創出

自分にあった進路選択:

- KGU 進学に必要な GPA 基準を全 12 年生が獲得するための個別指導 - 2021 年度では GPA 基準に到達できなかった生徒は全体の 7%

教育と組織の質の向上:

- 学習共同体の創出:コエージェンシー(生徒と教師が共に学習を組み立てる)を基盤とする水平な学校文化
- SIS スタンダード(世界標準の学習内容、方法、評価)の開発と展開

一人ひとりの生徒に寄り添う:

- ブリッジングセンター(帰国生サポート)の運営、情報発信:SIS の特色の確立

組織の再編:

- ブランドアイデンティティと戦略の確立
- パブリックリレーションズ + マーケティングチームの確立
- プロフェッショナル グロース(専門的成長)リーダーの任命:系統的な研修と実践研究
- リーダーシップワークショップの開設:次期リーダーの育成と現リーダーの資質向上をめざす定期的な研修会
- 校務分掌組織の改編 - ラーニングチーム(生徒の知的発達に関わる校務)とパストラルケアチーム(生徒の精神的社会的成長に関わる校務)を中核とする生徒中心主義の組織
- 年齢構成の適正化

【重点施策】 (中期的な課題を解決するための重点施策を箇条書きしてください。「中期総合経営計画」の実施計画がある場合は、第1順位にしてください。優先順位の高いものから5つ程度)	【中期総合経営計画 実施計画】 として取り組むものに○
① 総合学園の「見える化」と関西学院アイデンティティの浸透	○
② 千里国際高等部生徒の本大学への進学率維持(50%以上)	○
③ 千里国際中等部・高等部の中高一貫教育校への転換検討	廃止
④ 施設の改善 (含:ICT)	○
⑤ 言語(日本語)サポート体制の確立	○
⑥ IBDP日本語授業導入(再度)検討	
⑦ 海外大学進学者増	廃止
⑧ 受験者増のための広報一般	廃止
⑨KG コンピテンシー＋SIS Learning Compass に基づく深い学びの実現(SIS スタンダード)	③の発展形
⑩Future Pathways: 一人ひとりの将来設計に丁寧に寄り添う	⑦の発展形

【3年間の取り組み状況(中期計画)を測る指標】

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| ①スクールモットーの認知度・共感度 | ②大学への内部進学率 |
| ③主体的で深い学びを実践する(SIS スタンダード) | ④ICTの効果的な活用 |
| ⑤ブリッジングセンター | ⑥自分に合った学校選び Future Pathways |
| ⑦受験者数 | ⑧生徒成長指数 |

【目標や実績を踏まえた次年度に向けた展望】(2022年3月時点)

<1. フェーズⅠの中期計画の取組みにより明らかになった課題>

- 中期的な課題としてあげられている課題がフェーズⅠの期間中に学校全体で話し合われたり、共通認識された形跡がない。それらの課題を扱うチームも形成されていない。
- 課題自体に緊急性や、必然性に欠けるものも含まれている。
- 課題として解決すべき「理由」や「根拠」が明確ではない。
- 学校としての進むべき方向性を全員が共通理解することから始まる必要がある。

<2. 学校評価の取組みにより明らかになった課題>

アンケート調査から

- 関西学院のアイデンティティが広く共有されていない。
- 個々の生徒は自分の知的成長について好意的な評価をしている。一方で、SISの学校としての教育の質、学びへの集中、生徒の生活を丁寧に見守る習慣などでは、半数以上が好意的に評価しているものの、約4分の1の割合で「どちらとも言えない」という懐疑的な感想を持っている生徒、保護者、教員がいる。
- 学校の組織がわかりやすいかどうかについては三者とも控えめに回答している層が多い。
- 学習や進路についての支援には懐疑的な見方が多い。
- 情報を受け取る仕組みと情報が伝わっているかの認識は三者によって著しく異なる。生徒は概ね好意的、保護者は懐疑的、教員は否定的であった。
- 全体的な傾向として、教員のアンケート調査の回答の傾向は自信を持って共感している割合が低い。

総合的な評価から

三者が描いている「理想の学校の姿」が少しずつ異なっている。良い学校として必要な要素や材料が何であるのか、良い学校になるために育てるべき文化は何であるのか、それぞれが明確に認識していないように思われる。

<3. 上記1, 2を踏まえたフェーズⅡ(2022-2024)に向けた展望>

課題の名称の変換

カリキュラム再編の具体的内容→学習内容・方法・評価の改善:

- 学習プログラムの開発 - 個別最適化の推進:すべての子どもたちが深く学び成長する学習プログラム
- 学習指導法の開発 - 構造的思考力、批判的思考力、創造力の伸長:すべての子どもたちが深く学び成長する学習形態
- 学習評価の改善と開発 - すべての子どもたちの成長を正しく測定し常時伝える学習評価法と配信システムの開発

施設面の大規模改装→より良い学習環境の創出:

- Kwansei コンピテンシー、SIS ラーニングコンパスを具現化する学習環境の創出

大学への進学率の不安定さ→自分にあった進路選択:

- KGU 進学に必要な GPA 基準を全 12 年生が獲得するための個別指導 - 2021 年度では GPA 基準に到達できなかった生徒は全体の 7%

授業料の高さに見合う教育の提供→教育と組織の質の向上:

- 学習共同体の創出:コエージェンシー(生徒と教師が共に学習を組み立てる)を基盤とする水平な学校文化
- SIS スタンダード(世界標準の学習内容、方法、評価)の開発と展開

帰国生徒への言語サポート体制→一人ひとりの生徒に向き合う:

- ブリッジングセンター(帰国生サポート)の運営、情報発信:SISの特色の確立

組織の再編:

- ブランドアイデンティティと戦略の確立
- パブリックリレーションズ + マーケティングチームの確立
- プロフェッショナル グロース(専門的成長)リーダーの任命:系統的な研修と実践研究
- リーダーシップワークショップの開設:次期リーダーの育成と現リーダーの資質向上をめざす定期的な研修会
- 校務分掌組織の改編 - ラーニングチーム(生徒の知的発達に関わる校務)とパストラルケアチーム(生徒の精神的社会的成長に関わる校務)を中核とする生徒中心主義の組織
- 年齢構成の適正化

【目標や実績を踏まえたフェーズⅡ(2022~2024)に向けた展望(2021年8月時点)

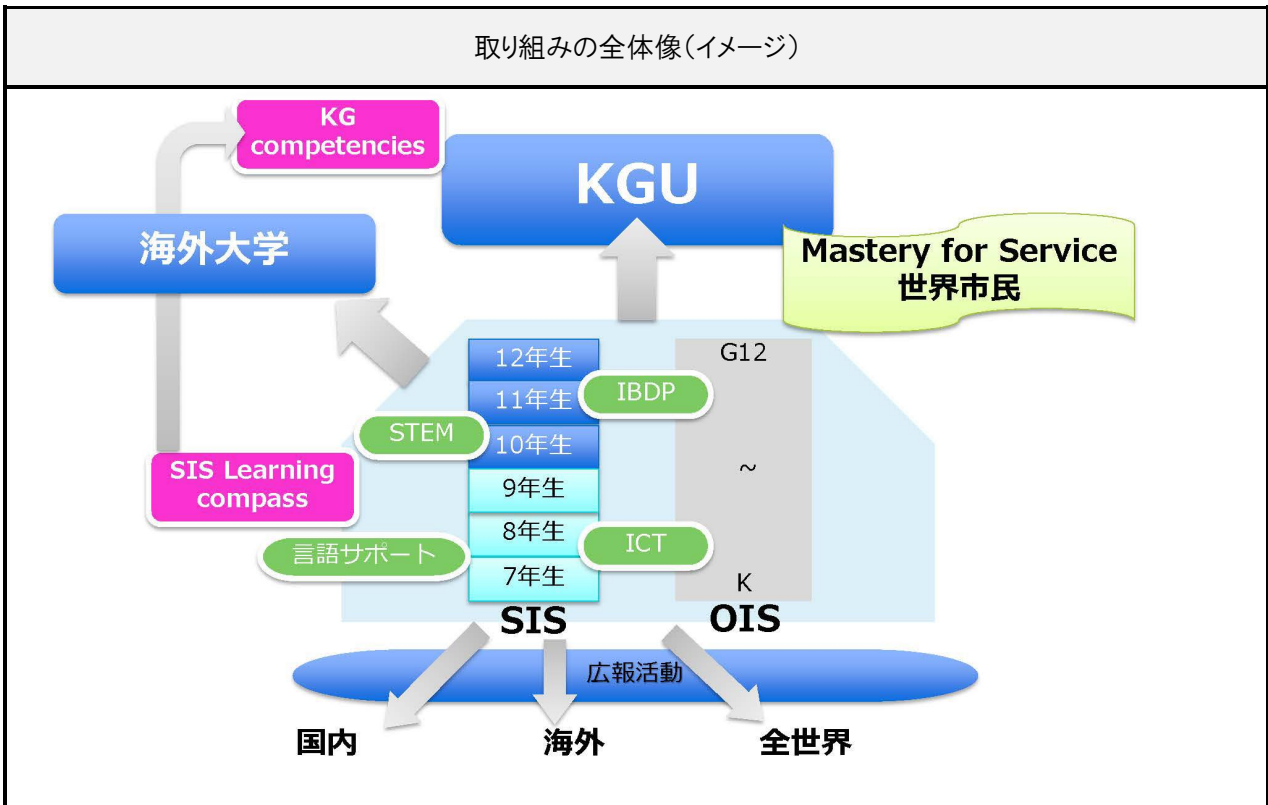
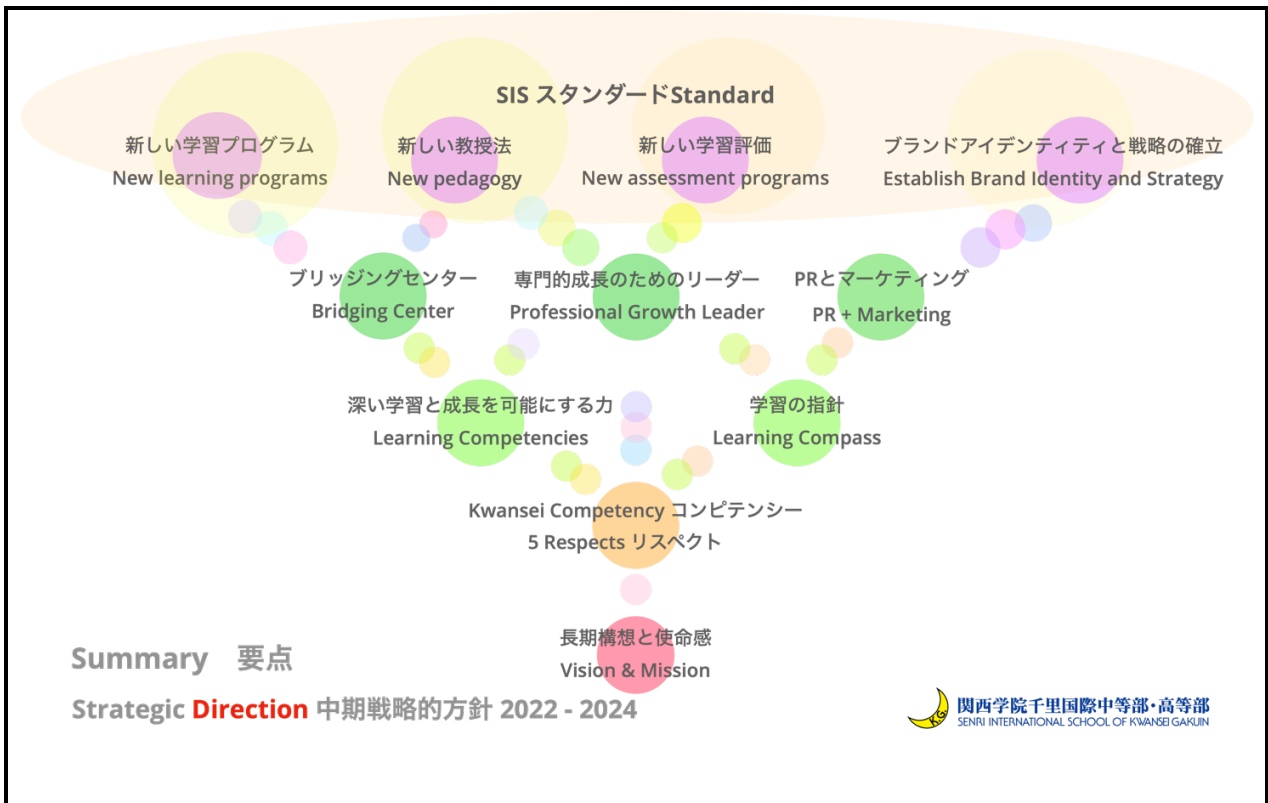
中期戦略方針の目標:多様で・戦略的な**プログラム**と**リソース**を通して、コミュニティの**多様性**と**アイデンティティ**をさらに支援し、生徒に**深い学習**の機会を提供する。

プログラム:個別適正化、アクティブラーニング、SIS スタンダード(学習方法・形態、学習評価)

リソース:学習環境、プロフェッショナル グロース(教員の専門的成長)、アイデアフォーラム(教員相互の学びの機会)、リーダーシップワークショップ(次期リーダー養成と現リーダーの資質向上)、パブリックリレーションズ + マーケティングチーム

多様性とアイデンティティ:多文化環境、ブリッジングセンター(帰国生サポート)

深い学習:①一生心に残る学び ②情熱につながる学び ③協働に基づく学び ④意義のある学び ⑤高次の技能を伴う学び



以上